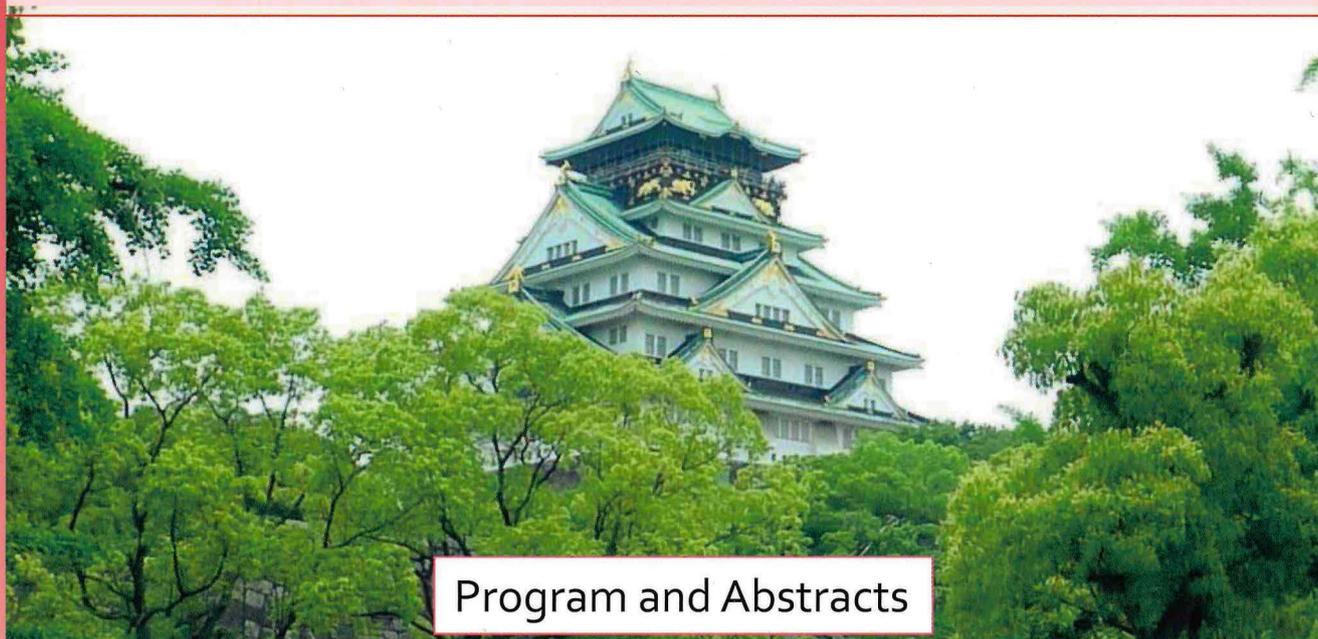


第31回

日本歯科東洋医学会

総会・学術大会

The 31st Annual Meeting of Japan Dental Society of Oriental Medicine



Program and Abstracts

時機到来



大会長：方 一如（大阪歯科大学歯科東洋医学室教授）
名誉大会長：川添堯彬（大阪歯科大学理事長・学長）
準備委員長：久保茂正（関西支部 くぼ歯科・くぼ鍼灸院）

会期：2013年11月15日（金）～17日（日）

会場：大阪歯科大学創立100周年記念館

大阪歯科大学東洋医学教室 & 日本歯科東洋医学会関西支部会

【ランチョンセミナーⅡ】 協賛：タカラベルモント(株)

『東洋医学からCTと顕微鏡歯科への誘い!』

くぼ歯科・くぼ鍼灸院 院長 久保茂正 先生

[ホテルニューオータニ大阪]

18:30～ 【懇親会】 司会：岩佐勝也 (長岡京市 岩佐歯科医院)

■ 11月17日(日) ■

[大阪城公園]

6:30～ 7:30 【市民公開講座Ⅰ(実習)】 座長 久保茂正 (和泉市 くぼ歯科・くぼ鍼灸院)

『究極の代替医療：スロージョギング®』 福岡大学教授 田中宏暁 先生

[A会場]

9:00～10:00 【ワークショップ 東洋医学を歯科医院経営に活かす】

座長 [関西支部] 朝田浩司 (茨木市 朝田歯科)・加藤一行 (長岡京市 加藤歯科医院)

『東洋医学と医院経営』 (尼崎市 寺浦歯科医院) 寺浦康夫 先生

『驚くほど激変した歯科医院完全公開!』 (藤沢市 むくなし歯科医院) 椋梨兼彰 先生

10:00～11:00 【特別講演Ⅱ】 座長 横瀬敏志 (明海大学歯学部)

『歯科における東洋医学のEBMと可能性』

大阪大学歯学部教授 丹羽 均 先生

11:00～12:00 【特別講演Ⅲ】 座長 竹田照正 (福岡市 竹田歯科クリニック)

『医科歯科連携の漢方薬とは』 慶應義塾大学医学部教授 渡辺賢治 先生

13:15～14:15 【市民公開講座Ⅱ】 座長 福岡博史 (東京都 福岡歯科)

『お口の病気には漢方薬が有効—あなたのお口の相談にのります!』

大阪歯科大学専任教授 王 宝禮 先生

14:30～16:00 【シンポジウム】 座長 丹羽 均 (大阪大学大学院)

～口腔顔面痛に対する治療法としての東西融合～

『歯科ペインクリニック外来における和洋折衷』

大阪大学歯学部准教授 杉村光隆 先生

『東西融合のペインクリニック』 大阪大学歯学部臨床准教授 瀧 邦高 先生

16:00～ 閉会式

[B会場]

9:00～10:00 【市民公開講座Ⅰ(講義)】 座長 英保武志 (大阪市 ABO歯科クリニック)

『究極の代替医療：スロージョギング®』 福岡大学教授 田中宏暁 先生



漢方治療における医科歯科連携

渡辺 賢治

慶應義塾大学環境情報学部並びに大学院政策・メディア研究科教授

漢方専門の外来を担当していると、歯科領域の患者さんが結構受診される。もしくは他の疾患で受診中に歯科領域の疾病を合併され、相談を受けることも多々ある。

漢方は本来全身をシステムとして診療するので、局所のみを選択的に効く漢方薬はないのであるが、やはり歯科領域には特殊な漢方の使い方があるように思われる。

例えば、口内炎に対しては半夏瀉心湯や黄連解毒湯を用いることが多いが、黄連解毒湯は実証熱証の患者が対象となる。しかしながら、中間証から虚証の患者に口内炎の時だけ含んでもらってもよく効く。また、枳実芍薬散（エキスでは四逆散）も歯槽膿漏に奏功することが多いが、これも全身の証をあまり問わずに使うことが可能である。こうした局所の症状に対しては全身の証と切り離して考えてもよいのかもしれない。

一方、歯科領域の問題は全身症状と切っても切り離せない。例えば糖尿病、喫煙などに伴う歯科領域の問題は局所のみ考えても治療が奏功しない場合も多い。その場合には全身の証を診て処方を決定する必要がある。

医科歯科の連携は全身疾患に伴うものか、局所だけの問題かによって多少異なるように思われる。全身疾患に伴う場合は、まず全身疾患の治療をすることで、歯科領域の問題が解決されれば問題ないが、それでも治らない場合は医師から歯科医師への紹介が必要であろう。逆に、歯科領域のみの問題と考え漢方治療を行っても思うような効果が得られない時は、全身疾患を疑って歯科医師から医師への紹介が必要かもしれない。

超高齢社会となり、介護現場においては誤嚥性肺炎の予防に口腔ケアが必要であるように、漢方治療においても医科歯科の連携は今後ますます必要になってくると思われる。

【略歴】

- 1984年 慶應義塾大学医学部卒業
 - 1984年 慶應義塾大学医学部内科学教室
 - 1990年 東海大学医学部免疫学教室 助手
 - 1991年 米国スタンフォード大学遺伝学教室
ポストドクトラルフェロー
 - 1993年 米国スタンフォードリサーチインスティテュート分子細胞学教室
ポストドクトラルフェロー
 - 1995年 北里研究所東洋医学総合研究所
 - 2001年 慶應義塾大学医学部東洋医学講座
准教授
 - 2008年 慶應義塾大学医学部漢方医学センター
(改称) 准教授
 - 2012年 奈良県立医科大学 客員教授
 - 2013年 慶應義塾大学環境情報学部並びに
大学院政策・メディア研究科 教授
慶應義塾大学医学部兼任教授
- 現在に至る。

【学会活動等】

- 日本内科学会総合内科専門医
- 米国内科学会上級会員
- 日本東洋医学会学術教育委員会委員長
- 日本東洋医学会専門医・指導医
- 和漢医薬学会評議員
- 東亜医学協会理事
- 日本漢方医学研究所理事
- WHO ICD 改訂委員
- 社会保障審議会統計分科会疾病・傷害及び死因
分類専門委員